

助動詞 「む」「むず」

◇活用

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○
む	(ま)	○	む	む	め	○

◇接続

「む」「むず」とともに**未然形接続**になる。

◇意味

① 推量「〜だろう」

…文末にあり主語が「一人称」のことが多い。

例) 守柄にやあらむ、国人の心の常として、「今は。」とて見えざるを(土佐日記)

(国司の人柄だろうか、任国の人心の常としては、「今は。」と言って顔を見せないようだが)

② 意志「〜よう」

…文末にあり主語が「一人称」のことが多い。

例) 男もする日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。(土佐日記)

(男がするという日記というものを、女の(私も)してみようとして、書いてみる。)

③ 適当・勧誘「〜がよい、〜たらどうか」

…文末にあり主語が「二人称」のことが多い。「こそ〜め」の形は適当・勧誘になりやすい。

例) 御弟子にせさせ給ひなむや。(枕草子)

(あなたのお弟子にしてくれませんか。)

④ 仮定・婉曲「〜ような」

…文中にあることが多く、下に体言があれば「婉曲」、それ以外なら「仮定」が多い。

例) いかならむ世にも、この世のものならぬ人と見むこと、いとわりなし。(源氏物語)

(もしどのような時代であっても、この世のものとは思えない人を見ることは非常に不思議なことである。)

※ 文中・文末、人称は例が多くあるため、識別の際は現代語訳の確認する必要があります。